



発行者 社会福祉法人養和会 東京都八丈島八丈町大賀郷 7670-1
tel 04996-2-0770 fax 04996-2-0432

第14号

時代の求めに応じて

理事長 沖山 芳清

いま養和会は、経営改革に取り組んでいます。これまでの組織運営を、経営体質に変えていく取り組みです。社会福祉法人である養和会に、「なぜ『経営』が必要か」と、違和感を持つ方もいるかもしれません。が、養和会が目指す「経営」とは、企業のような利潤追求ではありません。

八丈島における高齢者福祉サービスの中心的役割を果たすため、20年30年先の島の将来を見据えながら、しっかりと経営理念や目標を定め、組織を整えて、次世代に引き継いでいくことです。

平成12年4月、介護保険制度は「利用者本位」の基本理念でスタートしました。

戦後長い間にわたって、国や自治体・社会福祉法人によって提供されてきた福祉サービスの仕組みが、平成12年度以降、主要な福祉サービスは行政による「措置制度」から、利用者とサービス提供者との「契約」による制度へと転換いたしました。これがわが国の社会福祉基礎構造改革です。このことにより、養和会にも新たな仕組みに対応する組織変革が求められました。しかしながら、八丈島において最も中心的・独占的に高齢者

福祉サービスを担ってきた、養和会の組織体質は、措置制度という「行政丸抱え」の時代から抜け切れず、経営的観点でのノウハウが不足していました。

こうした反省から、経営の中核をなす役員体制を、従来のボランティア型からより専門的なものといたしました。そのうえで迅速で的確な意思決定と、経営責任を明確にした経営体質づくりに取り組んでおります。

皆様ご承知の通り、八丈島においても介護保険のサービス提供には、デイサービスなどにおいて、民間企業やNPO法人などが参入してまいりました。このことはサービス提供者の競争につながります。一方で介護保険サービスにおける法や制度は、目まぐるしく変わります。

養和会では、このようなサービス提供主体の動向や、八丈町各地域の状況、利用者の数やニーズを把握し、地域とともに発展する組織を目指します。

時代の流れは、社会福祉法人にも経営環境への厳しさ、様々な試練をもたらします。養和会は、いついかなる事態にもしっかりと対応できるよう、経営陣が中心となつて確たる変革を進めてまいります。

認知症になつても安心して過ごせる八丈島を目指して…

認知症の啓発の一環として、認知症サポーター講座を行っています。認知症の基礎知識を得て、その講座を受けた証にオレンジリングをもらいます。

平成24年7月から各地区の公民館を廻つて定期的に開催します。

それ以外に、各種団体向けに相談に応じて開催します。テキストの準備等があるので、ご希望の団体は早めにご相談ください。

地域包括支援センターは、養和会が運営する町の委託機関です。

おおむね65歳以上の方の介護や看護に関する相談を受けるほか、介護保険の申請代行等行っています。

◎八丈町地域包括支援センター

☎②0580

担当 菊池恵子

☆ 7日(土)
10時30分～12時
未吉公民館
☆ 19日(木)
19時30分～21時
保健福祉センター



H24年7月 認知症サポーター講座の予定

鍵かけ運動展開中！

認知症ってどんな症状が出るか、ご存知ですか？物忘れが、よく知られている中心的な症状です。新しいことは覚えにくく、古い記憶は残っています。ふと、30年分の記憶をなくして80歳の人が50歳の気分になることがあります。

そうなると、車の運転をしようと、自分の車と勘違いして他人の車に乗ってしまうということがあります。八丈島では、車にキーをつけっぱなしのことが良くありますが、危険です。車のキーを抜いてロックすることが認知症の人の事故防止にもなります。

防犯のためにもキーを抜き、ロックしましょ

内容は利用者とのお話し・散歩の付添・洗濯たたみ・清掃・読み聞かせ・行事のお手伝い、その他なんでもあります。一度ホームを覗いてみてください。



ボランティア募集しています。

○お願い
ホームでは布が不足しています。使用済みのシーツやタオルがありましら寄附をお願いします。また、布を切つていただくボランティアを募集しています。よろしくお願ひします。

日本財団福祉車輌助成事業のご報告

平成23年度に日本財団から福祉車輌助成事業を受け、左記のとおり新しい車輌を整備することができました。御礼とご報告を申し上げます。

(整備車輌)

ホンダライフ（助成金52万円、自己負担金29万円）

訪問介護事業所で、ホームヘルパーが訪問時に毎日使用させていただいています。



養和会の福利厚生

職員の福利厚生の一環として、各種クラブ・サークル活動も盛んです。バレーボール、ソフトボール、卓球、駅伝、ボランティアなどの活動を通じて事業所を超えた法人内の交流を深め、島内の大会にも参加しています。そこで培われるチームワークは職員数130名を超える大きな施設の連携に一役買っているようです。(写真上=ソフトボール、写真下=駅伝)



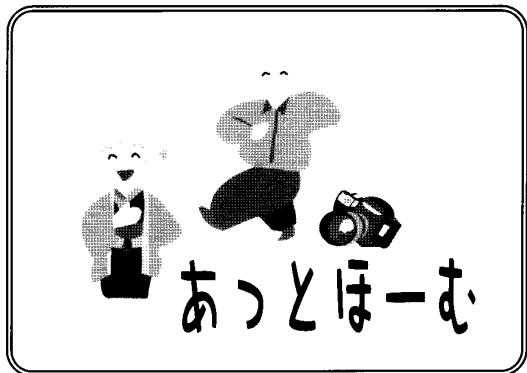
TEAMWORK

お願い(食中毒の予防)

当ホームの給食は、6月から9月の4ヶ月間、刺身などの生モノを避けています。

利用者のご家族の皆様には、特にこの期間、食中毒の原因となりやすい食品の差し入れを止めて頂くよう、お願い申し上げます。





○ ジャガ芋塩茹で
施設のじゃが芋堀を行いました。早速おやつに塩茹でにして召し上がっていただきました。「とってもおいしかった」と言っていただけました。



東部の方々が八丈太鼓をいました。フラの音楽で踊っている利用者の



○ 菜園
ホーム菜園できゅうり、ねり、スイカを育てています。収穫が楽しみです。



○ 三小SC訪問
11月18日 三根小学校の4年生が在宅サービスセンターを訪ねて来てくれました。よさこい踊りや群読を披露してもらい、ゲームも一緒に楽しめました。



○ 足湯きらめき
4月29日 足湯きらめきに行ってきました。天気も良く海を眺めながらの温泉は「きもちいい…」と喜んでいました。



○ 職員基礎研修
6月2~3日 (株)ビジネスコンサルタントの井上先生による「職員基礎研修」を実施し職員127名が受講しました。

○ 餅つき
12月28日 毎年恒例の商工会青年部による餅つきで会が早朝より昔ながらの餅つきをしてくださいました。利用者も毎年楽しみにして



○ 養護遠足

5月25日 三根和泉親水公園に遠足に行つてきました。田んぼの稲や新緑を浴びリフレッシュしてきました。



○ 輪投げ

3月21日 ホールに集まりみんなで輪投げをして楽しみました。



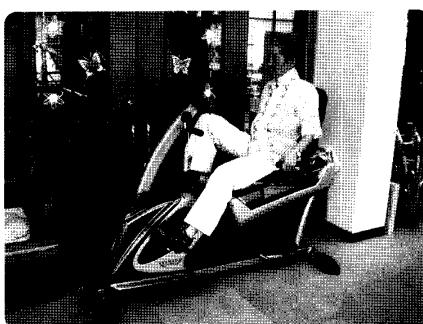
○ 商工会女性部

11月15日 商工会女性部の踊りを披露してくださいました。楽に合わせて手足を動かす姿もありました。



○ 健康チェック

車椅子体重計で毎月1回健康チェックを行っています。



○ デイホーム リハビリ

今年度新たに増やしたエアロバイクです。毎日訓練に励んでいます。



○ デイホーム 書道クラブ

在宅サービスセンターの書道クラブです。皆さん達人の腕前です。



○ ラジオ体操

毎朝みんな揃ってラジオ体操を行っています。その後施設内の散歩をし健康促進に励んでいます。



○ 料理クラブ

11月13日 第二八丈老人ホーム料理クラブの活動風景です。普段料理をされる機会は減ってしまいましたが熟練した手捌きに職員も学ばせていただいてます。



平成23年度第三者評価について

一、八丈老人ホーム

がつて

○特に良いと思われる点

①組織改革に意欲的に取り組んでいる

施設では、職員の意識改革が不可欠であるとの認識から法人理念と職員の行動指針を創設し、「措置から選択利用」へ、「運営から経営」へと体質の改善を図っている。改革を率先垂範するため理事会定員を9名から6名に減員し、評議員会を廃止して経営層を少数精銳で行動力のある体制に改組し、事業部門の統括責任者に現場の管理者や女性を登用し、施設長の兼務を改めるなどの組織改革を行っている。理事会を毎月開催し、運営委員会を毎週開催するなど、重要案件を検討する時間を確保しつつ素早い意思決定を行うことに努めており、成果が出ている。

②「業務改善メモ」により業務の改善につなげている

施設では、日常の利用者支援や業務の遂行にあたり、アイデアや改善必要と思われることについて職員が気づいたことを「業務改善メモ」に記入して、提案していくしくみを整備している。あがつた意見等については、職員会議で検討し、部署あるいは施設として改善に向けて取り組んでいる。内容によっては、検討した事項は業務の標準としてマニュアルに反映する等、現場の意見を実現して業務改善していく等、反映することで職員のやる気向上にもつながっている。

○介護予防の観点からできることは利用者にやつてもうように働きかけている

身の回りのことができない利用者も多く増加しているが、できることは利用者本人に行つてもらい、いつまでも自立生活が送れるよう支援している。過激な支援をせず、統一した対応を全職員で心がけている。入所前に書道を教えていた利用者には、書道クラブの講師を依頼したり、電気工事を仕事にしていた利用者には電球の交換をしてもらうなど、可能な限り利用者の力を引き出し、役割を担うことで生き甲斐につながるよう働きかけている。職員が行った方が短時間で済むこともあるが、利用者の自主性・主体性を尊重した支援を行つてている。

○さらなる改善が望まれる点

①個人別の人材育成計画に着手することが望まれる

施設では、法人研修計画を策定し、従来は研修希望の集約であった研修計画を体系づけ、職員の意識改革、組織強化を目的に人事考課制度を導入するとともに並行してキャリアパス制度の導入を進めている。制度を軌道に乗せるなかで職位、職責、職級、昇任の要件を明らかにして、能力開発、人材育成、能力及び業績主義賃金を実現し、働く意欲の向上と業績への貢献を目指している。こうした試みが、職員一人ひとりの意向を踏まえた個人別の育成計画の策定へとつながっていくことが期待される。

当養和会は多くの皆様から、現金、野菜、花、その他施設に有用な物品などの寄付をいただきました。

左記にご氏名を掲載し、ご芳志に厚く感謝申上げます（昨年10月から本年3月まで、順不同、敬称を略させて頂きます）。

ありがとうございました

大山栄	奥山隆久
沖山光男	鍵山敏男
沖山蓉子	金尾玄洋
菊池眞	金田輝喜
菊池国仁	田代和久
菊池孝之	田代賢一
菊池スミ	田代静子
菊地肇	田代萌子
橋場晶子	内藤保
八丈ナーセリー	中村商店
	日本絵手紙協会
	根橋のり子

②記録とマニュアルそれぞれの目的や用途を明確にした整備が望まれる

日常的な利用者の状況や変化を記録するケース記録、各種会議録、業務日誌等、あらゆる部分で記録がなされているが、いずれも記録の目的や用途があるが、現状は、それを意識した記録になつていないので、現状も見られる。また、マニュアルについては、見直しがなされているもの、されてないもの等が混在しているため、内容の精査とファイリングの整備により、現場に沿った内容で、使いやすいものとなるよう改善が望まれる。

③利用者が落ち着いて快適に過ごせる環境整備にさらに努められたい

利用者同士の人間関係によるトラブルの多くは同室者への不満や食堂での席についてのものである。トラブル発生時には双方から事情を聞き迅速に対応し、誰もが居心地よく過ごせるように配慮している。全居室にエアコンを取り付け快適に過ごせる環境整備を行い、居室内の清掃は職員やヘルパーが行なうなど、美化に努めているが、建物の老朽化が進んでおり、可能な限り随時補修している。設備の整備は難しいと思えるが、物品の整理整頓やトイレ内の清掃など、利用者が落ち着いて快適に過ごせる環境づくりにさらに努められたい。

二、第二十八文老人亦一ム

○特に良いこと思われる点

①組織改革に意欲的に取り組んでいる

八丈老人ホームに同じ。

②次世代のリーダー育成を念頭においていた研修の充実に取り組んでいる

「日常生活そのものがリハビリテーションであり、老化防止対策である」との自立援助方針のもと、理学療法士が常勤で勤務し更に定時に作業療法士と言語聴覚士が来所し、介護職員との協働で、利用者一人ひとりの身の回りの生活動作等を詳細に把握分析し個別目標を設定している。また、療法士から職員に講義や実技の指導が行なわれその力量を高めている。例えば足に浮腫のある利用者に対して、浮腫がだんだんに和らぐような物理療法を実施している。介護度5から介護度2まで改善された成功例があり高く評価できる内容である。

③専門職間で連携し健康維持に取り組んでいる

心身機能が低下しつつある高齢者の生活が快適になるよう栄養士を中心とした栄養マネジメント、理学療法士による個別機能訓練、看護師による健康管理、介護職員による日々の生活支援等各専門職員が連携し、健康維持に努めている。22年8月に褥瘡予防対策委員会を立ち上げ、定期的に会議を開き委員が中心となつて多職種が連携し、ポジショニングや湿潤対策等を行い、その結果、利用者の健康状態が良好に保たれ、褥瘡も画期的に改善された。その取り組みと成果を都の社会福祉協議会が主催する研究大会で発表し実績を残している。

○さらなる改善が望まれる点

①個人別の人材育成計画に着手することが望まれる
八丈老人ホームに同じ。
れる

「日常生活そのものがハビリテーションであり、老化防止対策である」との自立援助方針のもと、理学療法士が常勤で勤務し更に定時に作業療法士と言語聴覚士が来所し、介護職員との協働で、利用者一人ひとりの身の回りの生活動作等を詳細に把握分析し個別目標を設定している。また、療法士から職員に講義や実技の指導が行なわれその力量を高めている。例えば足に浮腫のある利用者に対しても、浮腫がだんだんに和らぐような物理療法を実施している。介護度5から介護度2まで改善された成功例があり高く評価できる内容である。

心身機能が低下しつつある高齢者の生活が快適になるよう、栄養士を中心とした栄養マネジメント、理学療法士による個別機能訓練、看護師による健康管理、介護職員による日々の生活支援等各専門職員が連携し、健康維持に努めている。22年8月に褥瘡予防対策委員会を立ち上げ、定期的に会議を開き委員が中心となって多職種が連携し、ポジショニングや湿润対策等を行い、その結果、利用者の健康状態が良好に保たれ、褥瘡も画期的に改善された。その取り組みと成果を都の社会福祉協議会が主催する研修会で発表して貰っている。

経営理念及び職員の行動指針は、施設内の各部署に掲示されており、折に触れ唱和する等、その浸透に向けて取り組んでいる。ただ、現場の支援においては、それらが謳っている状況とは差異が生じている。今年度、標準化を図るためにマニユアルの見直しを行っているが、マニユアルにおける支援姿勢として、経営理念や行動指針を具体的な行動や対応に落とし込むことで、さらに標準化がすすんでいくことに期待したい。

全利用者の9割が食事・入浴・排泄等介護を要する介護度の高い利用者が暮らす施設では、職員の高い介護技術を求められている。各場面ごとに手順書を作成し介助の目的や留意点をまとめ新人職員でもわかりやすく整理されているが、利用者の人権に配慮した状況に合わせた介助とは言い難い状況があった。意思表示が難しい利用者支援であればこそ、職員一人ひとりが「自らを律し」、利用者の尊厳を尊重し

春上寿昭
土方勇・功子
廣江郁子
フェニックス
藤巻卯子
松代恵美子
宮澤洋子
盲目平次郎
持丸十三子
持丸タツ子
山隈幸代美
山路まさる
舟田佑子
船橋一市
大賀郷宝来老人クラブ
ジエットエンタープライズ

春上寿昭
土方勇・功子
廣江郁子
フェニックス
藤巻卯子
松代恵美子
宮澤洋子
盲目平次郎
持丸十三子
持丸タツ子
山隈幸代美
山路まさる
舟田佑子
船橋一市
大賀郷宝来老人クラブ
ジエットエンタープライズ

た支援について見直し、施設が自指す、利用者本位の生活を送ることができるようプロ意識を持つて利用者対応と環境整備されることを期待したい。

三、八丈島高齢者在宅サービス センター（デイサービス）

○特に良いと思われる点

①特別養護老人ホーム及び養護老人ホームが併設しており、日常的に利用者間の交流ができる環境にある。

事業所内には、同法人の特別養護老人ホーム及び養護老人ホームが併設している。それぞれのホームには、以前利用者だった人がいたり、事業所に友人が通っている等の理由もあることから、事業所を訪れている。昼食はそれぞれのホームに戻るが、その他の時間は事業所で過ごしている状況があり、日常的に利用者間の交流が出来る環境がある。

②利用者にあつた方法で入浴介助をし、時間を拡大し利用者の要望に応えている。

在宅生活を継続するためにはデイサービスの役割は大きく、在宅で暮らす利用者と家族のデイサービスの利用目的のひとつに、入浴サービスがある。利用者の心身の状況や希望に沿った入浴方法で対応し、家で入浴できない利用者も機械浴槽で安全に入浴でき、入浴を楽しみとの意見も聞かかれている。利用者のニーズに合わせたサービス向上に努め、入浴時間を拡大することで、現在は1日約20名以上の入浴が可能となり、利用者の家族に喜ばれている。「利用者のために精一杯する」ことを自指して支援

している事業所の姿勢がここからもうかがえる。

○さらなる改善が望まれる点

①事業所の基軸となる方針を確立しサービスの基本事項の標準化の推進に期待したい

今年度、利用者の個別ケース記録のフォーマットを改定したり、マニュアルの整備に着手する等、改善に取り組んでいる。ただ、事業所としての記録のあり方や具体的な記入方法、利用者支援の姿勢や留意点等の基準が明確になっていない状況があるため、基軸となる方針を確立して、サービスの基本事項の標準化の推進に期待したい。

夏まつりのお知らせ

今年も、8月9日（火）に夏まつりを開催します。
昨年同様、檜之扇会や連合婦人会、櫻立踊り保存会など多くの方に参加をお願いし、賑やかで楽しい祭りにしたいと思っています。

また、多数の模擬店の出店も予定しています。是非お越し下さい。

職員を募集しています

◎調理員（契約職員）

募集人員 若干名

勤務条件 早出、遅出の変速勤務、但し相談に応じます。

給与 時間給 900円～1000円（昇給制度あり）

◎ホームヘルパー（契約職員）

①非常勤

業務内容 入浴、排泄、食事介助その他の生活全般にわたる援助。

募集人員 若干名

勤務条件 有資格者、7時～20時の間で、早朝、夜間の勤務あり。

給与 時間給 950円（昇給制度あり）

②登録型

募集人員 若干名

勤務条件 有資格者。

給与 時間給 1200円～業務時間による。

◎看護師（正規・契約職員）

勤務時間等相談に応じます。

②昼食時には安定した姿勢で安全に食事ができるよう検討されたい

利用者の食事の席は特に決まっていないが、固定席を好む利用者は慣れた席で食事を摂っている。車イスに乗車している利用者は、車イスのままテーブルについている。車イスからイスへの移乗が理想的ではあるが、人員的に難しい場合も、フットレストをあげ、床に足をつけるなど工夫の余地がある。テーブルの高さとイスの高さが合わない利用者の姿も目についた。テーブルやイスの交換などではなくとも足台やクッションを利用するなど、直ぐにできる改善を期待したい。より安全に安定した座位姿勢保持の工夫を検討し実践されたい。